

労働市場の構造的特徴と所得分配

[研究メンバー]

主査	小野 旭	一橋大学教授
	桑島靖夫	連合総研主任研究員
	中馬宏之	一橋大学教授
	中村二郎	東京都立大学助教授
	樋口美雄	慶應義塾大学教授
研究員	中西 肇	(財)統計研究会主任研究員
	西村謙一	(財)統計研究会研究員
	山崎 宏	(財)統計研究会研究員

[報告書目次]

- 第1章 国民経済計算における労働分配率の概念
- 第2章 経済成長率の変化と労働分配率
- 第3章 地域間賃金格差の分析
- 第4章 付加給付導入のためのスケール・エコノミー効果
—社内融資制度の分析を中心に—

[内容要旨]

わが国には長期雇用を前提とした労働環境が支配的であり、賃金や福利厚生費も長期雇用を前提として体系づけられている。その結果、労働市場の流動性は低下し、労働費用は他の先進国に比して固定的性格を持っている。円滑な労働移動の欠如は賃金の平準化を妨げて格差を存続させ、労働費用の固定化は産出高の動きと逆方向に労働分配率を変化させる傾向を生む。また、分配率の水準をめぐっては、日本の労働者は付加価値生産性について十分見合った支払を受けていないのではないかとの指摘もある。労働所得の内容を見ても、依然として企業規模間、男女間、あるいは年齢間に大きな賃金格差が見られ、分配減少の複雑さを窺わせている。

本報告書は、わが国の分配のあり方を、労働市場の流動性の問題やそれを抑制する制度的要因など、労働市場の構造的特徴と関連づけて多角的に分析したものである。

第1章 国民経済計算における労働分配率の概念

経済全体としての労働分配率を計算する場合、採用する定義の選択によって複数の数字を作ることができ、使い方によっては誤解を招くことになる危険もある。そこで、分配率の基礎的な概念整理を行い、計算上の問題点を挙げた。

第2章 経済成長率の変化と労働分配率

日本の企業は、付加価値生産性に見合った賃金を支払わず低いコストで輸出を伸ばしている。相応した賃金が支払われてよいとの意見が一財界人から出されてから、日本の分配率問題が注目を集め国際的視点から取り上げられるようになった。そこで、分配率の推移を追い国際比較をおこなって分配率決定のメカニズムをモデル分析した。これにより、終身雇用制度と不況期における労働所得分配率の上昇が関連づけられる。

第3章 地域間賃金格差の分析

伝統的な労働移動モデルに従えば、賃金格差を縮小するように移動がおこなわれ、長期的には格差は解消されることになる。しかし 80 年代に見られる地域間賃金格差の拡大と労働移動の減少は、それまでの期間において見られたことと逆の現象を引き起こしている。この報告書の目的は、このような 80 年代における地域間賃金格差拡大が引き起こされたメカニズムを分析することにある。地域間格差については、本来、賃金決定と移動を同時に決定するモデルから出発することが望ましいのは明らかであるが、この報告では分析の第一段階として、相対的に低い賃金を提示することしかできない地域で、その賃金決定において労働者の移動を抑制するようなメカニズムが内在化しているかについて特に焦点を当てて分析を行った。

第4章 付加給付導入のためのスケール・エコノミー効果

—社内融資制度の分析を中心に—

付加給付を導入する理由として、福利厚生施設等の利用の際にスケール・エコノミー効果を強調することが多い。また、その賦与が、労働者の定着率を高める効果を持つとも主張される。さらに付加給付は、税法上の規定があるものの実質的非課税のものが多く、この優遇策が付加給付選好を高めているという意見も根強い。報告書では、付加給付導入の経済合理性論には、これら諸説にいま一つ重要な側面のあることを主張する。それは付加給付導入のスケール・エコノミー効果で、長期の労使関係を通じて緊密化し、両者にもたらす効果のことをさす。この種のスケール・エコノミーをもたらす例としてはスケール・エコノミー効果をあわせもつものが多いが、退職金を担保とした住宅資金融資等があり、その分析を行った。

第5章 学歴間所得格差に見る世界の流れと日本の動き

人口の高齢化や経済の鈍化は、わが国の雇用慣行を新たな方向に変えるとの見方が有力である。それでは従来の日本型雇用慣行が崩れたあと、どのような社会が到来するのであろうか。意見は分かれるが、処遇は、個々人の業績に応じて賃金が支払われる体系が変わるとの指摘が多い。

わが国のホワイトカラーが国際的に見て労働生産性の低さを取り沙汰される。そこで、本研究では先進国におけるホワイトカラー労働者の問題点を検討することとした。ホワイトカラーの範囲に共通の認識がないので、ここでは相対的にホワイトカラーに学歴の高い人が多く含まれると

の考えから、学歴間の労働需給の変化、特に所得格差の推移等の、年代の違いを考察、比較検討した。